

社会科学習指導案

第5学年（男子3名、女子7名、計10名）

指導者 片貝 雅樹

I 単元名 「わたしたちの生活と情報」 小単元名 「情報と社会」

II 単元の考察

1 児童の実態

児童はこれまでに、3・4年生の社会科で自分たちの地域の公共施設の働きや消防・警察などの関係機関が地域の人々と連携して災害や事故の防止に努めていることについて学習してきている。また、前小単元「放送局の働き」では、テレビ局の仕事やそこで働く人々の工夫や努力について学習した。これらの学習を通して、公的機関同士やそれらと地域の人々とのつながり、放送局と国民生活とのかかわりについての理解を深めてきている。これらを受け、本単元では様々な公共サービスにおいて活用されている情報ネットワークの働きやそれが国民生活にどのような影響を及ぼしているかについての学習を行う。

本単元の学習にかかわるパソコンや携帯電話などの情報端末機器については、児童にとって身の回りにあるのがすでに当たり前であり、それらに対する興味も高く、本単元の学習には意欲的に取り組むことができると考える。児童に実施した事前アンケートの結果から、半数以上の児童が社会科で学習したことが自分の生活に役立っていると考えており、社会科の学習に対する意欲や関心は比較的高いと考えられる。しかし、役立っているという感覚は漠然としたものであり、具体的にどのようなことがどのような場面で役立っているかについての認識は不十分である。そのため、社会的事象と自分の生活とのかかわりについての実感をあまりもてない傾向にある。

また、今までの調べ学習などの経験から、自分に必要な情報を得るために資料を収集したり、収集した一つの資料の内容を大まかに読み取ったりすることはできる。しかし、その中の必要な部分だけを選んで取り出したり、まとめたりする力は十分ではない。さらに、いくつかの資料を比較・関連付けたりしながら考えることも不慣れであり、資料を活用する力が十分養われてはいないと考えられる。資料から必要な情報を集める・まとめる、複数の資料を比較・関連付けて考える、といった経験を積んでいくことが必要であると考えられる。

一方、調べたことを模造紙などに表現する活動は好み、意欲的に取り組むことができるが、どのようにすれば相手に内容や自分の考えがよく伝わるか、というところまで考えて表現することはなかなかできない。そこで、発表の場面を設け、相手に自分の考えが伝わったときの喜びや楽しさを体験させることで、説明する相手のことを意識しながら分かりやすく自分の考えを表現しようとする態度を育てていきたいと考える。

2 教材観

本小単元は、小学校学習指導要領社会編の第5学年の内容（4）ーイ「情報化した社会と国民生活とのかかわり」を受けたものであり、公共サービスの向上を目的とした、教育・福祉・医療・防災などの情報ネットワークについて調べる活動を通して、社会の情報化が国民生活に与える影響についての理解を深めることがねらいである。

現代は通信技術の発達により、世界中の様々な場所とネットワークでつながり、時や場所を選ばず、目的に応じて情報を発信したり受信したりできるようになった。そして、パソコンや携帯電話などの新しく登場してきた情報機器は今までの情報伝達手段の短所を補い、発信者はインターネットなどを介して、多くの人に対して一斉にかつ速く、確実に情報を送ることができ、受信者は必要な情報のみを選んで得られるようになるなど、社会の情報化はどんどんと進んでいる。そのような中、様々な分野で情報ネットワークのシステムが構築され、活用されるようになってきた。これら

の情報ネットワークシステムの活用により、様々な手続きが簡略化されるなど、わたしたちの生活にとってとても便利なものとなっていると考えられる。

一方で、わたしたちはこれら情報機器を当たり前のように使って生活しているが、情報を得たり送ったりするときに関心が向いているのは主にその内容に対してであり、情報の発信元や受信先、どのような仕組みで情報が送られてくるかということにはあまり関心を抱かずに利用しているのが現状だと考えられる。しかし、実際に見ることはできないが、このような情報ネットワークのシステムを運営しているのも、情報を発信・受信をしているのも人間である。つまり、情報ネットワークは人間のかかわりによって成り立っているということが出来る。このような情報ネットワークについての学習を行うことで、社会的事象と国民生活とのかかわりを基にしながら自分と事象とのかかわりに気付き、よりよい社会の形成のために進んで参画しようとする公民的資質の基礎を養うことができると考え、本単元を設定した。

3 教材の系統

第3学年 「わたしのまち みんなのまち」

- ・自分たちの住んでいる身近な地域や市について、特色ある地形、土地利用の様子、主な公共施設などの場所や働き、交通の様子、古くから残る建造物などがわかり、場所による地域の様子の違いを理解するとともに、地域社会に対する誇りと愛情をもつ。

第4学年 「くらしを守る」

- ・地域社会における災害及び事故の防止について、関係機関は地域の人々と協力して災害や事故の防止に努めていることや、関係の諸機関が相互に連携して緊急に対処する体制をとっていることを理解するとともに、地域社会の一員として安全なくらしを守るために協力し、法やきまりを大切にしようとする。

第5学年 「情報化社会とわたしたちの生活」

- ・我が国の情報産業や情報化した社会の様子について理解し、社会の情報化の進展に関心をもち、我が国の情報産業が国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解する。

第6学年 「わたしたちの願いを実現する政治」

- ・日常生活における政治の働きや我が国の政治の考え方を理解するとともに、国民生活には地方公共団体や国の政治が反映していること、日本国憲法は国家の理想、天皇の地位、国民としての権利や義務など国家や国民生活の基本を定めていることを理解する。

4 指導方針

【「つかむ」過程】

- 情報ネットワークについての興味・関心を高められるように、学校で活用しているメール配信システムを取り上げて身近な情報ネットワークの存在に気付かせ、さらに情報ネットワークにかかわる人や場所、やり取りされる情報などに気付くことができるように児童に考えさせる。
- 情報ネットワークの仕組みや働きを視覚的にとらえやすくするために、事象の構成要素を付箋紙に書き、それらのつながりを矢印で表した「ネットワーク図」を作成する。ここでは、学級全体で確認しながら、防犯・防災の情報ネットワークを「ネットワーク図」に表していくことで、その作成方法も理解できるようにする。

【「追究する」過程】

- 資料を基に教育・福祉・医療の情報ネットワークを紹介し、その中から調べてみたい情報ネットワークを児童に選ばせ、同じものを選んだもの同士でグループを作って活動を行うことで、多分野での情報ネットワークの利用に気付かせると共に、興味・関心をもって学習に取り組むことができるようにする。

- 効果的に調べる作業に取り組むことができるように、どのような方法を用いれば必要な情報を収集できるかを全体で確認して、見通しをもたせる。調べる際に情報収集が円滑に行えるように、教師が用意した情報ネットワークに関するインターネットサイトの一覧表や資料を活用させるようにする。
- 視覚的に分かりやすく表すために、情報ネットワークにかかわる人々の思いや願いを吹き出し型の付箋紙に書いて「ネットワーク図」に貼るようにする。
- 情報ネットワークの働きに気付くことができるように、人々の思いや願いを比較・関連付けて考えさせるようにする。
- 円滑に交流を行うことができるように、教師から交流の視点を提示する。また、交流の際に質問や意見が児童から出にくい場合は、自分が調べた情報ネットワークとの共通点や類似点、相違点などに着目させる。
- 情報ネットワークに対する見方や考え方を広げられるように、友達の見聞を聞き、自分では気付かなかったことや新たに考えたことなどを「ネットワーク図」に書き加えさせる。
- 具体的事例を基に情報ネットワークを利用する際には注意点があることに気付かせ、それについて発信者と受信者の双方の立場に立って考えさせることで、情報ネットワークについて多角的にとらえられるようにする。
- 情報ネットワークを利用する際の注意点を自分の言葉でまとめやすいように、話し合いで出たポイントとなる意見をキーワード化し、提示する。

【「まとめる」過程】

- 社会的事象と自分の生活とのかかわりを実感できるように、これまでの学習で得た知識と自分の生活とを関連付けながら、人々の役に立つと思う情報ネットワークを考え、新たな「ネットワーク図」を作成する活動を取り入れる。
- 作成方法は同じであるが、情報ネットワークを利用するときには受け手だけでなく送り手にもなることを意識させるために、自分が発信者となって新たな情報ネットワークを考えさせる。
- 情報ネットワークに対する見方や考え方が広げられるように、新たに作成した「ネットワーク図」について、グループで交流する場面を設ける。その際に、児童の考えた人々の思いや願いを分類し、意図的にグループ編成を行う。また、友達の情報ネットワークのよかった点について気付いたことをカードにまとめ、相手に伝える活動を取り入れる。

Ⅲ 単元の目標

情報ネットワークの働きやそれが国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解すると共に、社会の情報化の進展と情報の有効な活用について関心をもつことができる。

Ⅳ 評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
情報化された社会の様子に関心をもって意欲的に調べ、社会の情報化のよりよい進展について考えようとしている。	情報ネットワークにかかわる人々の思いや願いについて考えたり、友達の見聞を基に自分の考えを整理したりしながら、社会的事象の意味について適切に表現している。	様々な方法を用いて、情報化した社会の様子についての必要な情報を集めて読み取ったりまとめたりしている。	情報ネットワークの働きや情報化の進展が国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解している。

V 指導と評価の計画 (略)

第1時（本時は「つかむ」1/1）

1 ねらい

・「ネットワーク図」の作成を通して、防犯・防災の情報ネットワークの仕組みや働きを理解すると共に、情報ネットワークについての興味・関心をもつ。

2 準備

児童・・・筆記用具
 教師・・・ノートパソコン、プロジェクタ、提示用「ネットワーク図」、付箋（黄、青）、「ネットワーク図」の台紙

3 展開

過程	学 習 活 動	時間	指導・支援及び留意点	評価項目
つかむ	1. 学校の行事予定変更の連絡の場面を想起し、自分の身の回りで情報ネットワークが活用されていることと共に情報ネットワークの概要を理解する。	10	<ul style="list-style-type: none"> 情報ネットワークについての興味・関心を高められるように、学校で活用しているメール配信システムを取り上げ、身近な情報ネットワークの存在に気付かせる。 インターネットを利用して情報をやり取りするシステムを「情報ネットワーク」ということを伝える。 	
	学習課題①「情報ネットワークについて調べ、友達に伝えよう」			
追究する	2. 情報ネットワークの仕組みや働きを説明するためには、どのようなことが分かればよいのかを学級全体で話し合う。	10	<ul style="list-style-type: none"> 情報ネットワークについての学習の見通しをもたせるために学習課題①を提示する。 かかわる人や場所、やり取りされる情報などの構成要素に気付くことができるように、具体的な場面を挙げながらメール配信システムについて児童に考えさせるようにする。 	<p>【関心・意欲・態度】 情報ネットワークに関心を持ち、意欲的に「ネットワーク図」の作成に取り組んでいる。 （発言、ネットワーク図）</p> <p>【知識・理解】 情報ネットワークの仕組みや働きを理解することができる。 （ネットワーク図）</p>
	3. 渋川市の防災行政情報メール配信システムについての資料を基に、学級全体で情報ネットワークの仕組みや働きを「ネットワーク図」に表す。	20	<ul style="list-style-type: none"> 児童が視覚的にとらえやすいように、渋川市の防犯、防災のメール配信システムのwebページをプロジェクタで提示する。 児童が図の作成方法と情報ネットワークの仕組みや働きが理解しやすくなるように、かかわる人や場所、やり取りされる情報を学級全体で確かめながら、教師と共に「ネットワーク図」を作成する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【「ネットワーク図」作成の手順】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童が事象を区別しやすいように、情報ネットワークにかかわる人や場所は黄色、やり取りされる情報は青の付箋紙にペンで書く。 情報がどのように伝わるのかを明確にするために、人や場所の付箋紙を台紙に貼り、情報が送られる方向に合わせて矢印でつなぐ。 矢印が書けたら、その近くにやり取りされる情報の付箋紙を貼る。 </div>	
まとめる	4. 「ネットワーク図」を基に、情報ネットワークの仕組みと働きについての学習内容を整理し、次時の学習についての見通しをもつ。	5	<ul style="list-style-type: none"> 情報ネットワークの仕組みや働きについて整理できるように、近くの子童同士で作成した「ネットワーク図」が教師のものと同じになっているかを確認し合う活動を取り入れる。 	

第2時（本時は「追究する」1／6）

1 ねらい

・教育、福祉、医療の情報ネットワークについて様々な方法を用いて調べ、必要な情報を収集することができる。

2 準備

児童・・・作成した「ネットワーク図」、筆記用具

教師・・・プロジェクタ、実物投影機、資料、取材メモ、提示用「ネットワーク図」
各種情報ネットワークについてのサイトの一覧表

3 展開

過程	学 習 活 動	時間	指導・支援及び留意点	評価項目
つかむ	1. 教育、福祉、医療の分野でも情報ネットワークが利用されていることを知る。	10	・多くの分野で情報ネットワークが利用されていることに気付けるように、資料を基に教育、福祉、医療の情報ネットワークについて紹介する。	
追究する	2. 教育、福祉、医療の情報ネットワークの中から一つを選択し、同じ情報ネットワーク同士でグループになって様々な方法を用いて必要な情報を収集する。	30	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介した三つの分野の情報ネットワークの中から一つを選択し、それについて調べたことを基に「ネットワーク図」を作成することを児童に伝える。 ・協力して効率よく作業を進められるように、同じ情報ネットワークを選択した児童同士でグループを編成する。 ・効果的に作業に取り組むことができるように、今までの調べ学習を想起させ、どのような方法を用いれば必要な情報を収集できるかを学級全体で確認し、見通しをもたせる。 ・調べる際には、限られた時間の中で必要な情報収集が行えるように、教師の側でピックアップしたインターネットのサイトを書いた一覧表や用意した資料などを渡し、それを活用して調べるように助言する。 	【技能】 情報ネットワークについて様々な方法で調べ、必要な情報を収集することができる。（観察、取材メモ）
まとめる	3. 収集した情報を整理し、次時の学習についての見通しをもつ。	5	・次時の「ネットワーク図」を作成する活動に取り組みやすくするために、収集した情報の中から、図に表すのに必要な「情報ネットワークにかかわる人や場所」「やり取りされる情報」「情報がどのように伝わるのか」の三点を確認しておくように指示する。	

第3時（本時は「追究する」2／6）

1 ねらい

・教育、福祉、医療の情報ネットワークについて、収集した情報を基にして「ネットワーク図」に表し、情報ネットワークの仕組みや働きを理解することができる。

2 準備

児童・・・「ネットワーク図」、取材メモ、筆記用具

教師・・・提示用「ネットワーク図」、付箋（黄、青）、「ネットワーク図」の台紙、ヒントシート

3 展開

過程	学 習 活 動	時間	指導・支援及び留意点	評価項目
つかむ	1. 前時の学習を振り返り、本時の学習の見通しをもつ。	5	・本時は情報ネットワークについて調べたことを基に「ネットワーク図」を作成することを伝え、児童が具体的にどのようなものを作成するかを確認できるように、第1時に作成した「ネットワーク図」を提示する。	
追究する	2. グループになって、収集した情報を「かかわる人や場所」「やり取りされる情報」に分類し、付箋紙に書き出す。	10	・児童が「ネットワーク図」の作成に取り組みやすくなるよう、手順を改めて確認する。 ・児童に情報ネットワークと自分の生活とのかかわりを意識させるために、かかわる人の中に「自分やその家族」を入れるように指示する。	【思考・判断・表現】 収集した情報を基に、情報ネットワークの仕組みや働きを「ネットワーク図」に表すことができる。 (発言、ネットワーク図)
	3. グループで分類した情報を取捨選択しながら、情報ネットワークの仕組みや働きを「ネットワーク図」に表す。	25	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>【「ネットワーク図」作成のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が情報を整理しやすいように、付箋紙に書き出した内容を確認し、同じような内容のものが複数ある場合には、どちらかを使用するか、2つをまとめて新たな付箋紙に記入させるようにする。 ・児童が見やすい「ネットワーク図」を作成できるように、矢印を書く前に、矢印が交差しないように付箋を配置することや交差しそうなら付箋紙を移動させ、配置を変更するように助言する。 </div> <p>・なかなか図に表すことができないグループにはヒントシートを与え、まず事象と事象のつながりを整理してから図を作成させる。</p>	【知識・理解】 情報ネットワークの仕組みや働きを理解することができる。 (ネットワーク図)
まとめる	4. 作成した「ネットワーク図」を見直し、内容を確認する。	5	・情報ネットワークの仕組みや働きについての理解を深められるように、グループ全員でかかわる人や場所、やり取りされる情報、矢印でつないでいる事象や方向を再確認させる。	

第4時（本時は「追究する」3／6）

1 ねらい

・やり取りされる情報の内容などを基に、防犯・防災の情報ネットワークにかかわる人々の思いや願いを考え、「ネットワーク図」に表現することができる。

2 準備

児童・・・全体とグループで作成した「ネットワーク図」、筆記用具

教師・・・プロジェクタ、実物投影機、提示用「ネットワーク図」、吹き出し型付箋

3 展開

過程	学 習 活 動	時間	指導・支援及び留意点	評価項目
つかむ	1. 本時の学習の見通しをもつ。	10	・様々な分野で情報ネットワークが利用されていることを振り返り、その働きについて追究するために、学習課題②を提示する。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: 80%;"> <p>学習課題② 「なぜ、わたしたちの生活の中で情報ネットワークが利用されるようになってきたのか」</p> </div>			
追究する	2. 防犯、防災の情報ネットワークにかかわる人々の思いや願いについて学級全体で話し合い、「ネットワーク図」に表す。	30	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を追究するために、情報ネットワークにかかわる人々の思いや願いに着目させ、学級全体で意見を出し合いながら考えさせる。 ・意見が出てこない場合には、やり取りされている情報に着目させ、その内容から考えてみるように助言する。 ・「ネットワーク図」の他の情報と混同しないように、かかわる人々の思いや願いは吹き出し型の付箋紙に書いて、台紙に貼るようにする。 ・児童が考えた人々の思いや願いを「ネットワーク図」にどのように表したらよいかを理解できるように、拡大した「ネットワーク図」を黒板に掲示し、児童は教師と同じように図に貼っていくようにする。 	<p>【関心・意欲・態度】 情報ネットワークにかかわる人々に対して関心を持ち、意欲的に「ネットワーク図」の作成に取り組んでいる。 (発言、ネットワーク図)</p> <p>【思考・判断・表現】 やり取りされる情報を基に、かかわる人々の思いや願いを考え、表現することができる。 (ネットワーク図)</p>
まとめる	3. 作成した「ネットワーク図」を見直し、次時の学習についての見通しをもつ。	5	・交流に取り組みやすくするために、「ネットワーク図」に表した人々の思いや願いについて再確認させ、次時の学習予定を伝える。	

第5時（本時は「追究する」4／6）

1 ねらい

・やり取りされる情報の内容などを基に、教育・福祉・医療の情報ネットワークにかかわる人々の思いや願いを考え、それらを比較したり関連付けたりしながら、情報ネットワークの働きについて考えることができる。

2 準備

児童・・・全体とグループで作成した「ネットワーク図」、筆記用具
 教師・・・プロジェクタ、実物投影機、提示用「ネットワーク図」、吹き出し型付箋、「ネットワーク図」の例（選択されないものがあつた場合）

3 展開

過程	学 習 活 動	時間	指導・支援及び留意点	評価項目
つかむ	1. 本時の学習の見通しをもつ。	5	<ul style="list-style-type: none"> 本時は教育・福祉・医療の情報ネットワークにかかわる人々の思いや願いについて考えることを伝え、情報ネットワークの働きについて追究できるように、学習課題②を再度提示する。 	
	<p>学習課題② 「なぜ、わたしたちの生活の中で情報ネットワークが利用されるようになってきたのか」</p>			
追究する	2. それぞれが調べた情報ネットワークにかかわる人々の思いや願いをグループで考え、「ネットワーク図」に表す。	20	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題を追究するために、情報ネットワークにかかわる人々の思いや願いに着目させ、グループで意見を出し合いながら考えさせる。 意見が出てこない場合には、やり取りされている情報に着目させ、その内容から考えてみるように助言する。 「ネットワーク図」の他の情報と混同しないように、かかわる人々の思いや願いは吹き出し型の付箋紙に書いて、台紙に貼るようにする。 考えられたグループの児童には、情報ネットワークにかかわる人々の思いや願いは一つではない場合もあることを伝え、他にも思いや願いがないかを考えるように助言する。 	<p>【関心・意欲・態度】 情報ネットワークにかかわる人々に対して関心をもち、意欲的に「ネットワーク図」の作成に取り組んでいる （発言、ネットワーク図）</p> <p>【思考・判断・表現】 やり取りされる情報を基に、かかわる人々の思いや願いを考え表現することができる。 （ネットワーク図）</p>
	3. 考えた人々の思いや願いを基に、学習課題に対する考えを各自でまとめる。	15	<ul style="list-style-type: none"> 情報ネットワークの働きに気付くことができるように、「ネットワーク図」に書いた人々の思いや願いを比較したり関連付けたりして考えさせるようにする。その際、児童に比較したり関連付けたりするための視点を提示し、活動が行いやすくなるようにする。 	<p>【思考・判断・表現】 かかわる人々の思いや願いを基に、学習課題について考えることができる。 （ワークシート）</p>
まとめる	4. 作成した「ネットワーク図」を見直し、次時の学習についての見通しをもつ。	5	<ul style="list-style-type: none"> 交流に取り組みやすくするために、「ネットワーク図」や学習課題についてのまとめを再確認させ、次時の学習予定を伝える。 	

第6時（本時は「追究する」5／6）

1 ねらい

・グループ活動で考えたり、交流を通して新たに気付いたりした、情報ネットワークにかかわる人々の思いや願いを基に情報ネットワークの働きについて考え、まとめることができる。

2 準備 児童・・・グループで作成した「ネットワーク図」、筆記用具
教師・・・プロジェクタ、実物投影機、ワークシート

3 展開

過程	学 習 活 動	時間	指導・支援及び留意点	評価項目
つかむ	1. 本時の学習の見通しをもつ。	5	・本時はいろいろな人の考えを聞き、それを参考にして、学習課題②について考えをまとめることを伝える。	
追究する	2. 作成した「ネットワーク図」を基に交流を行う。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><本時の交流の視点></p> <p>①情報ネットワークにかかわる人や場所、やり取りされる情報は何か</p> <p>②情報ネットワークにかかわる人々の思いや願いはどんなものか</p> <p>③なぜ、わたしたちの生活の中で情報ネットワークが利用されるようになってきたのか</p> </div>	20	<p>・情報ネットワークに対する見方や考え方を広げられるように、以下の手順でグループごとに発表を行い、考えを交流する活動を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【交流の手順、ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの発表する順番を決め、発表者は内容の説明を行う。それに対し、聞く側は質問や意見を述べる。 ・発表の際には、相手に内容が伝わりやすいように「ネットワーク図」を聞く側に見せながら説明を行う。 ・学習課題に対する考えを深める交流を行うことができるように、交流の視点を提示する。 </div> <p>・児童が見やすいように、作成した「ネットワーク図」を実物投影機で提示する。</p> <p>・質問や意見が児童から出にくい場合には、自分が調べた情報ネットワークとの共通点や類似点、相違点などに着目させる。</p> <p>・様々な情報ネットワークに児童が触れることができるように、教育・福祉・医療の中で選択されないものがあつた場合には、教師が「ネットワーク図」で例を提示し、紹介する。</p>	<p>【思考・判断・規】</p> <p>交流を通して友達の意見との共通点や類似点、相違点を知り、それを基に情報ネットワークについて考え、新たに気付いたことを「ネットワーク図」に表現することができる。 (発表、発言、ネットワーク図)</p>
	3. 交流を通して得た友達の意見を基に、「ネットワーク図」を修正する。	10	・情報ネットワークに対する見方や考え方を広げられるように、友達の意見を基にグループで話し合わせ、自分では気付かなかったことや新たに考えたことなどを「ネットワーク図」に書き加えさせるようにする。	
まとめる	4. 交流で得た友達の意見を参考に、再度学習課題に対する考えをまとめ、発表する。	10	<p>・学習課題に対して、より多角的にとらえながら自分の考えを整理することができるように、交流を通して修正を加えた「ネットワーク図」を参考に考えさせる。</p> <p>・考えがなかなかまとめられない児童に対しては、働きに目が向けられるように、特にかかわる人々の思いや願いの共通点や類似点は何かを考えてみるように助言する。</p> <p>・友達の考えを聞き、社会的なものの方や考え方を広げることができるように、数名の児童にまとめた考えを発表させる。</p>	<p>【知識・理解】</p> <p>情報ネットワークの働きについて理解することができる。 (ワークシート)</p>

第7時（本時は「追究する」6／6）

1 ねらい

・作成した「ネットワーク図」や資料を基に、情報ネットワークを利用する際の注意点について考えることができる。

2 準備

児童・・・「ネットワーク図」、筆記用具

教師・・・プロジェクタ、実物投影機、資料、ワークシート

3 展開

過程	学 習 活 動	時間	指導・支援及び留意点	評価項目
つかむ	1. 前時までの学習内容を振り返り、本時の学習の見通しをもつ。	10	・情報ネットワークのもつ働きについて振り返った後、情報ネットワークの注意点について追究するために、本時の学習課題を提示する。	
本時の課題「情報ネットワークを利用する際に気を付けなければならないことは何だろうか」				
追究する	2. 作成した「ネットワーク図」や資料を基に、情報ネットワークを利用する際に気を付けなければならないことについて話し合う。	20	・情報ネットワークを利用する際の注意点について考えられるように、誤った情報を送ってしまったために社会が混乱した事例を取り上げ、紹介する。 ・情報ネットワークを利用する際の注意点について多角的にとらえられるように、発信者と受信者の双方の立場に立って考えさせるようにする。 ○間違っ <u>た</u> 情報を送ってはいけない。 ○自分の発信した情報に責任をもつ。 ○ <u>個人</u> 情報をきちんと管理する。 ●情報が <u>正</u> しいかどうかを確認しないといけない。 ● <u>むやみ</u> に <u>個人</u> 情報を教えてはいけない。 ●不審な情報が送られてきたら、 <u>相談</u> する。 (○は発信者、●は受信者の注意点)	【思考・判断・規範】 資料や「ネットワーク図」を基に、情報ネットワークを利用する際の注意点を考えることができる。(発言)
まとめる	3. 情報ネットワークを利用する際に気を付けなければならないことについての考えをまとめる。	15	・児童が考えをまとめやすいように、話し合いで出たポイントとなる意見をキーワード化(上記下線部)して板書しておく。 ・なかなかまとめられない児童に対しては、「間違っ <u>た</u> 情報を送るとどんなことが起こると考えられるか」を振り返らせ、それを基に考えるよう助言する。	【知識・理解】 情報ネットワークを利用する際の注意点を理解することができる。(ワークシート)

第8時（本時は「まとめる」1／2）

1 ねらい

・今までの学習内容を振り返り、自分たちの生活に役立つ新たな情報ネットワークを考え、「ネットワーク図」を作成することで、情報ネットワークの意味に対する考えを整理することができる。

2 準備

児童・・・「ネットワーク図」、付箋紙、吹き出し型の付箋紙、筆記用具

教師・・・プロジェクタ、実物投影機、「ネットワーク図」の例、ワークシート、ヒントシート

3 展開

過程	学 習 活 動	時間	指導・支援及び留意点	評価項目
つかむ	1. 前時までの学習内容を振り返り、本時の学習の見通しをもつ。	5	・情報ネットワークと自分の生活とのかかわりの実感がもてるように、学習課題③を提示して、新たな情報ネットワークを考える活動を行うことを伝える。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>学習課題③ 「自分や人々の役に立つ情報ネットワークを考え、『ネットワーク図』に表してみよう」</p> </div>			
追究する	2. 自分の生活をよりよいものにする新たな情報ネットワークを考え、「ネットワーク図」に表す。	25	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が新たな情報ネットワークを考えやすくなるように、教師の作成した「ネットワーク図」の例を提示する。 ・基本的な作成方法については今までの「ネットワーク図」と同じであるが、情報ネットワークは受け手としてだけでなく、送り手として利用する場合もあることを意識させるために、自分を発信者として情報ネットワークの中心に位置付けることを伝える。 ・作業がなかなか進まない児童に対しては、考える手順を段階的に示した、ヒントシートを与える。 	<p>【関心・意欲・態度】 人々に役立つ情報ネットワークの「ネットワーク図」を意欲的に作成している。（観察）</p> <p>【思考・判断・表現】 自分の生活と関連させながら、人々に役立つ情報ネットワークの働きや注意点などについて考え、「ネットワーク図」に表現することができる。（ネットワーク図）</p>
	3. 考えた情報ネットワークの働きと注意点を考え、文章で書く。	10	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が情報ネットワークの働きや注意点を考えやすくなるように、教師の考えた文章例を提示する。 ・なかなか文章で表せない児童には、人々の思いや願いに着目して考えるように助言する。 	
まとめる	4. 作成した「ネットワーク図」の内容を確認し、次時の学習についての見通しをもつ。	5	・次時は各自の考え情報ネットワークについて、互いに説明し合うことを伝え、友達が見て分かりやすい図になっているかどうかを見直させるようにする。	

第9時（本時は「まとめる」2／2）

1 ねらい

・新たに作成した「ネットワーク図」を基に交流を行い、情報ネットワークが国民生活に与える影響についての見方や考え方を広げることができる。

2 準備

児童・・・新たに作成した「ネットワーク図」、筆記用具

教師・・・プロジェクタ、実物投影機、友達のよさを書くカード、ワークシート

3 展開

過程	学 習 活 動	時間	指導・支援及び留意点	評価項目
つかむ	1. 本時の学習についての見通しをもつ。	5	・本時は友達の発表を聞き、考えた情報ネットワークのよさについて、互いの意見を交換することを伝える。	
追究する	2. それぞれが考えた情報ネットワークについて、「ネットワーク図」を基にグループで交流を行う。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content;"> <本時の交流の視点> ○友達が考えた情報ネットワークのよかったところは何か </div>	30	・児童が見やすいように、「ネットワーク図」を実物投影機で拡大して、提示する。 ・発表者が発表しやすいように、説明する順序を板書し、確認できるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ①情報ネットワークにかかわる人や場所 ②どんな情報がどのように伝わるか ③かかわる人の思いや願い ④情報ネットワークの便利なところと利用するとき気を付けなければいけないところ </div> ・情報ネットワークに対する見方や考え方が広げられるように、児童の考えた人々の思いや願いを分類し、意図的にグループ編成を行う。そして、聞く側は友達の情報ネットワークのよかった点について考え、カードに記入して発表者に渡すようにする。 ・友達の情報ネットワークのよかった点を考えやすいように、交流の視点を提示する。	【思考・判断・表現】 友達の考えた情報ネットワークの発表を聞き、自分の考えと比較したり関連付けたりしながらそのよさに気づき、表現することができる。 (発言、カード)
まとめる	3. 情報ネットワークについての自分の考えをもう一度整理して、まとめる。	10	・単元の学習内容を振り返り、理解を深めることができるように、作成した「ネットワーク図」などを活用しながら、情報ネットワークのよさや気を付けなければならないことについての自分の考えをワークシートに文章でまとめる活動を行う。	【知識・理解】 情報ネットワークが国民生活に与える影響と情報の有効な活用についての理解を深めることができる。 (ワークシート)